

ほつ 2022 12 30



高橋恭司 / TAKAHASHI Kyoji

Void

高橋は、写真というメディアを自覚している。写真とは複製技術であり、光の現象である。この技術と現象をいかに表現のメディアとするかという点に写真作品の美術的評価軸は置かれるべきである。8x10のフィルム時代から一貫して、高橋の写真作品はすべての工程において高橋自身の手が入っている。撮影は無論のこと、引き伸ばし、現像、全てにおいて独自の手法を試みる。各工程の無限の組み合わせの中から生み出される一枚のプリントは果たして再現性はないに等しい。写真の一回性について思考する写真作家がどれだけいるだろうか。原理的には、フィルム(あるいはRAWデータ)が同じなら同じ写真が複製できる。しかし、原理的な可能性と、実現性は異なる。この世に同じものなど存在し得ない。写真から複製芸術であるという頸木を外した先には一回性への相転移が起きる。基本的に高橋の作品にはエディションが設けられていない。改造された装置と自作の暗室という不安定な制作環境では再現性に乏しいという事実もあるにはあるが、それ以上に高橋自身が写真の複製性についてを了解した上で意図してそれを忘却しているからだ。我々が複製だと思い込んでいるそれは、自らの目の曇りあるいは知覚の限界を誤魔化す欺瞞の産物だ。一方、高橋は眼前にあるただ一枚の物質としての写真を見ている。写真にアウラを取り戻す。

本展「Void」においてはデジタルカメラで撮影した新作を発表する。高橋が日常的に愛用しているライカM8を使って、自室にいながらにして見える範囲を切り取ったプライベートな視点。従来のフィルムではなく、デジタルで撮られたイメージを、Photoshop上で編集した上で、プリンターの出力設定をマニュアル調整し、結果としてアルシュ紙に浮かび上がった写真はRAWデータとは大きく異なっている。淡く、しかし、はっきりと捉えられた事物が、やや均整を欠いた色バランスで紙に焼き付いている。眼前の事物それぞれそのままを写しとるのではなく、ここにおける高橋の態度はむしろ絵に向かう画家のようだ。この新作シリーズで高橋の精神は現実と離れすぎてしまう直前の場所に立って静かに張り詰めている。

昨年9月の個展では、高橋の目、カメラのレンズ、フィルム、プリント、さらなる複写、と流転するイメージを高橋の写真の本質として捉え、それを「Ghost」と呼んだ。今回の新作は奈落の底を際から覗き見るようなものだ。レンズの奥に飲み込まれた世界がカメラと高橋の身の奥底で新しい光を得て一葉の写真となる。この現象がひとたび紙に焼きついた瞬間、それは二度と繰り返されることのない唯一性を得る。



2023年11月11日

2023

高橋恭司 / TAKAHASHI Kyoji

Void

2023.08.15 - 08.27 : 12:00-18:00, closed on Monday

void ± : 3-16-14 1st Floor, Minamiaoyama, Minato-ku, Tokyo 107-0062, JAPAN

Curated by KKAO Co., Ltd.

同時開催：作品集『Void』出版記念展

2023.08.15 - 08.27 : Tue.-Sat.11:00-20:00, Sun.11:00-19:00, closed on Monday

Haden Books : 3-16-1 LOVELESS AOYAMA, Minamiaoyama, Minato-ku, Tokyo 107-0062, JAPAN

OPENING PARTY & TALK EVENT

高橋恭司 x 高橋一平 (建築家)

@void+ 展示室内 08.15, 18:00-19:00 予約不要、入場無料

@LOVELESS青山 & void+ 料理研究家・執筆家の麻生要一郎による特製かき氷、スペシャル・サマー・ドリンクの販売あり(予定)

モリス たいりか 見たい 2022
12, 22



作品集：Void

写真&テキスト：高橋恭司

デザイン&アートディレクション：Christophe Brunquell (クリストフ・ブランケル)

プロデュース：小林 健 (KKAO株式会社)

編集：大城壮平 (POST-FAKE)

出版：Haden Books

刊行日：2023 4.15

サイズ：180 × 270 mm

ページ：50P

部数：500部限定 (プリント付特別版10種各5部 + 展覧会限定特別版2種類各10部)

価格：通常盤 ¥5,000. | 特別版 ¥30,000. (税別)